

第27号

# 会報 めいおんの会

発行

令和2年3月15日

「めいおんの会」(名古屋音楽大学出身教員の会)

事務局 名古屋市緑区大清水四丁目522

TEL・FAX (052) 877-1243

発行責任者 会長 百合草 薫

## 名古屋音楽大学の今

名古屋音楽大学学長 佐藤 恵子

名古屋音楽大学の学長に就任し、あっという間に4年が経ちました。コースの垣根を越えて学びたいことを自由に学べる大学、主専攻・副専攻を履修可能としている中、「演奏を大切にする大学」「学生一人一人に寄り添う大学」をモットーに、学生の多様化と少子化の進む中、学生の質の向上に挑んだ4年間でした。

ダブルレッスン制度のピアノ演奏家コースには日本のトップレベルの教授陣を迎え、管弦打楽コースには成績優秀者にダブルレッスンを可能にするプリヴィレッジレッスン制度を作り、同様に教授陣の充実を図りました。逆にソルフェージュ履修に苦しむ学生のために、TA(ティーチングアシスタント)として、院生を授業に導入し、単位未修得者を減らす努力をしました。クラス担任のように学生には何でも相談のできる教員・アドバイザー制度の充実を図りました。

一方、外部資金獲得の一つ、科研費の獲得を教員に奨励し、意識改革を進め、「教育」「研究」「大学行政参加」を要求し、施設貸し出し(コンクール会場、各種研修会)を積極的に進めています。

開かれた大学として、『出張コンサート』、学生の主体で秋に開催する『めいおん音楽祭』を学内だけでなく、学外でも開催することで、学外に広くアピールしています。

『大学主催演奏会』『出張コンサート』『めいおん音楽アカデミー(音楽教室)』を担当している演奏部の充実と、C号館にある演奏部の改修工事をし、明るい名古屋音楽大学の顔となりました。

グローバル化の進む現代、海外交流の充実は必須だと考え、スペインのリセウ音楽院、ザルツブルグのモーツァルテウム、ドイツのエッセンにある音楽大学、音楽熱の高い中国の浙江外国語学院と学術交流提携を結びました。今年は海外に飛び立つ学生が複数いると思います。

音楽で健康な日々をと願う音楽療法コースは日本の音楽療法を牽引したいと、アメリカのGIM研修会を開催し、大学院ではより特化した教育をしていきます。

めいおんの会は同窓会活動の一つになりました。本学の学生はコースに関係なく教員免許を取得し、皆さんの後輩となることを夢見て入学しています。本学の音楽教育コースは教員免許取得にはほぼ特化していますが、今年から実技を課さないセンター入試を導入しました。音楽療法コース、音楽ビジネスコースも同様です。

来年には同朋学園100周年を迎えます。2022年には名古屋造形大学が名城公園に移転してきます。キャンパスには多目的ホール建設が予定されており、本学の可能性が広がり、同朋学園は一層発展します。

働き方改革の進む日本では、部活動・吹奏楽部が低迷するのでは困るという思いで、『めいおんジュニアウィンド』を土曜日の10時から12時まで月3回開講します。1年間は楽器を貸し出し、初心者にも受講を可能にします。皆様も大歓迎です。

同窓会とは情報共有に務め、規模は小さくはなりましたが、卒業生の皆様に誇りを持っていただける大学に進化したいと、教職員一同、心を一つに努力しています。今後ともご指導ご鞭撻を心からお願いし、名古屋音楽大学の現状報告とさせていただきます。

♪♪令和2年度 総会・研修会・懇親会のご案内♪♪

【日時】 8月30日(日) 10:00~10:15総会 10:20~12:20 研修会・情報交換 12:45~14:45 懇親会

【会場】 名古屋音楽大学 ホールDO

【内容】 テーマ『ジャズへのお誘い』

講師：名古屋音楽大学講師 小濱安浩先生(ジャズサクソ)・卒業生

演奏を通してジャズの魅力を堪能するとともに、その構造などにも触れていただき、授業に活用できるような知識を少しでも身に付けることができたらと考えています。多数のご参加をお待ちしています。

12月26日・27日、名古屋音楽大学で行われた文化庁主催「令和元年度 芸術系教科等担当教員等研修会・小学校音楽科 東海・北陸地区ブロック研修会」に参加してきました。研修会は「新学習指導要領に基づく、音楽活動の楽しさを体験する実践研修授業を研究考察する」と題して行われました。

### 【テーマ①】 「合唱の授業から、人と人がひとつになる心を学ぶ」

「曲想と構造、歌詞との関わりを考え、作曲者の意図を聞き、思いを深める」「お互いの歌声やパートを聴き合って、合唱がひとつになることを味わう」ことを研修目標にし、新学習指導要領の「表現」に視点を当てて行われました。名古屋音楽大学特任教授の高橋 裕先生、ピアニスト・作曲家であり奥様でもある高橋晴美先生に指導していただきました。

教材は、「あじさいの花」「ひとつ」を取り上げました。

「あじさいの花」では、詩を読むことから始まりました。思いやりやいたわり、寄り添う気持ちを表現するには、かけ合う部分が浮かび上がるように強弱の変化を用いることや、作詞者が強く伝えたい部分は、滑舌をはっきりと聞き手に伝わるように歌うことなどを教えていただきました。



【名音大の学生オーケストラの伴奏で合唱】

学生オーケストラの伴奏で合唱】

「ひとつ」では、言葉のエネルギーや、歌詞の捉え方について考えを深めました。そして、作曲者自身から作曲した思いや意図を直接聞いたことがとても心に残りました。また、オーケストラと合わせるときに必要な子音の発声法も学び、オーケストラの伴奏で合唱するという貴重な体験もできました。



### 【テーマ②】 「音楽を感じ取るための身体を動かす体験活動」

「身体を動かす活動を通して、特徴や演奏のよさに気付き、主体的に聴こうとする態度を育成する」ことを研修目標にし、新学習指導要領の「鑑賞」に視点を当てて行われました。名古屋音楽大学特任教授吉川範行先生、同非常勤講師伊藤陽子先生の指導、同教授後藤龍伸先生のオーケストラ指揮によるリトミックの体験をしてきました。

教材は6年生の鑑賞教材になっている「ハンガリー舞曲第5番」を扱い、音楽を目に見える形にし、感情を身体でダイレ

クトに表現することを学びました。

実際には、「テニスボールを音楽に合わせて床に打ち付けてみ【オケを伴奏に曲のエネルギーを身体で表現】る」、「二人一組になり、間に大きな風船を挟んでいるつもりでフレーズやテンポの変化を感じながら互いに押し合ってみる」、「指揮者が自由にテンポを変化させて演奏する曲を聴きながら、瞬時にそれに合わせて身体を動かす即時反応」等々、たくさんの体験をしました。

これらのことを高学年から取り入れるのは少し抵抗があるので、できるだけ低学年のうちから取り入れていくようにすると、高学年になってからも自然に楽しく取り組むことができるのではないかと思います。オーケストラを伴奏に曲のエネルギーを身体で表現するという貴重な体験をし、演奏者の息づかい、指揮者の動きを肌で感じ取ることができ、音楽を身体全体で楽しむことができました。

今回の研修では、人と関わり合いながら音楽を楽しむ児童を育成していくためのいろいろなヒントをもらいました。これからの授業で生かしていけるよう、努力していきたいです。

※ この研修会の内容は、全国芸術系大学コンソーシアム(JUCA)のホームページで公開されています。

**=編集後記=**■名音大で行われた「芸術系教科等研修会」、本会にも協力依頼があり、声をかけさせていただきました。参加された方からは、「身体を使った音楽体験は授業の充実に繋がる。」「生のオーケストラの体験は、音楽の楽しさを実感できた。」といった感想が聞かれ、好評のようでした。■いよいよ4月から小学校で新学習指導要領に沿った授業が進められます。新しいことに目が向きがちですが、「不易」の部分も大切にしながら進めたいものです。■新型コロナウイルスによる休校。早く終息し、新たな気持ちで新学期がスタートできることを願いたいものです。(ゆ)

